

笑顔あふれるふくしのまちづくり に関する要望書

日頃より医療・介護・福祉活動等、ふくし大作戦と称し市民の暮らしを考える市政を運営いただき敬意を表します。無料低額診療対象者への調剤薬局にかかる費用助成は本来、国が無料低額診療の改善も含めて実施すべきものであるにもかかわらず、苫小牧市が市民を守る立場で実践くださっていることに当院としても心より感謝しております。

今年度、当院が医療活動を実践してきた中で下記の点について要請・懇談を行いたいと考えております。よろしくお取り計らいいただけますようお願い申し上げます。

1. 無料低額診療事業の普及とさらなる充実のお願い

日頃より、「広報とまこまい」なども活用し、苫小牧市としても無料低額診療の普及に努めてくださりありがとうございます。昨年度より当院においても「無料低額診療普及チーム」を発足し、町内会等への案内活動と外来患者を対象にアンケート調査を実施しました。アンケートの結果、通院患者さんの半数は無料低額診療制度をよく知らず、需要はあっても利用されていない現状があることがわかりました。また、貧困ラインを計る設問に着目すると、半数の人が経済的不安を感じており、3割の人は給料日前に暮らしに困ることや、趣味を楽しむ余裕がないことがわかりました。生活困窮者が増える中で、無料低額診療の更なる周知の必要性を感じています。

一方で、生活保護基準を満たしていない患者さんにとって、無料低額診療制度を継続して利用できることは重要なことであると当院は考えています。誰もが安心して薬物療法を受け続けられるように、最大1年間となっている薬代助成についての延長をご検討いただけますようお願いいたします。

2. 子ども医療による通院助成拡大のお願い

子ども医療による通院助成を中学校卒業まで拡大いただけますようお願いいたします。

当院の無料低額診療は就学援助世帯も対象としており、今年度は25世帯の子どもとその親が受診しております。苫小牧市の就学援助数は小・中学校あわせて2631名(2020年度、北海道統計より)であり、当院を受診する際には無料低額診療の対象となります。該当する多くの方が厳しい生活の中、自己負担を支払い通院しているか、もしくは通院を我慢しているかのいずれかであることが考えられます。また、当院に受診をしたとしても小児科、耳鼻科、眼科など、安心して子育てをするために確保されるべき医療を提供することができません。つきましては、子どもたちの健康を守り、安心して通院ができるよう、子ども医療による通院助成の拡大をお願いいたします。

3. 带状疱疹ワクチン接種への助成のお願い

带状疱疹ワクチンの接種に対し、何らかの助成をしていただけますようお願いいたします。

带状疱疹は80歳までに約3人に1人がかかるとされている病気で、発症すると数か月間、夜も眠れない痛みに見舞われることや、治癒後も痛みの後遺症が残ることもあります。また、顔面神経麻痺や難聴、めまい、角膜炎からの失明の可能性もあります。带状疱疹を予防する方法としてワクチン接種があげられますが、従来からある弱毒化した生ワクチンの接種と、2020年に発売された不活化ワクチンの接種が挙げられます。このうち特に効果がみられる、不活化ワクチンは自己負担が1回あたり20,000円を超える高額なものを2回接種することが必要であり、経済格差により接種できる方が限られます。当院でも週に一度程度の問い合わせがあるものの、高額な費用負担が原因で接種に結び付いた例がありません。

道内では標津町では1回あたり11,000円の助成、今金町では1回あたり10,000円の助成がされており、全国的には名古屋市で1回あたり4,200円の自己負担で接種できるという例もあります。

ワクチンで予防できる病気で高齢の患者さんが苦しまずに済むようにするためにも、苫小牧市での助成の実施についてぜひご検討をいただけますようお願いいたします。

以上、よろしくお願いいたします。